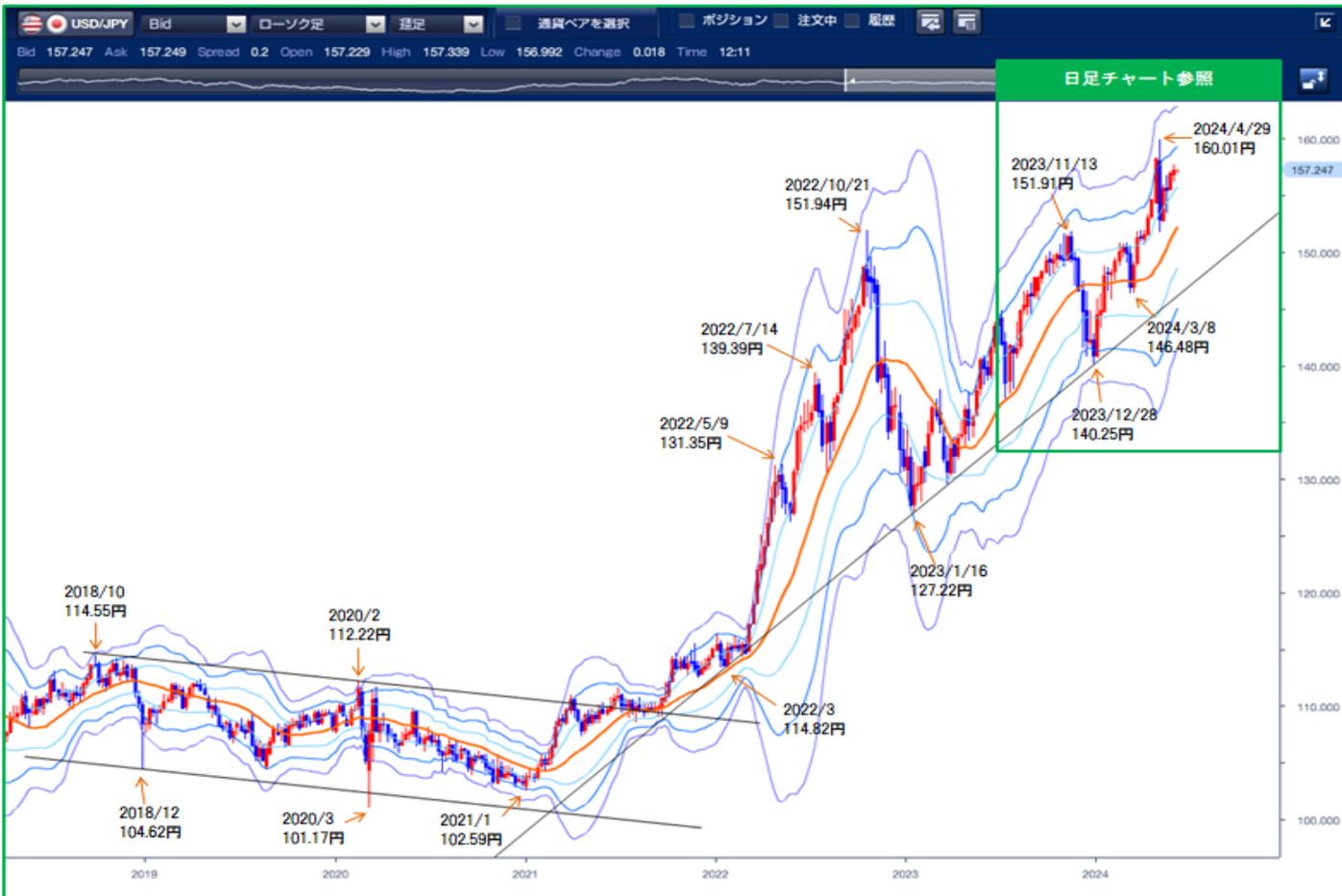


週足



長期概況

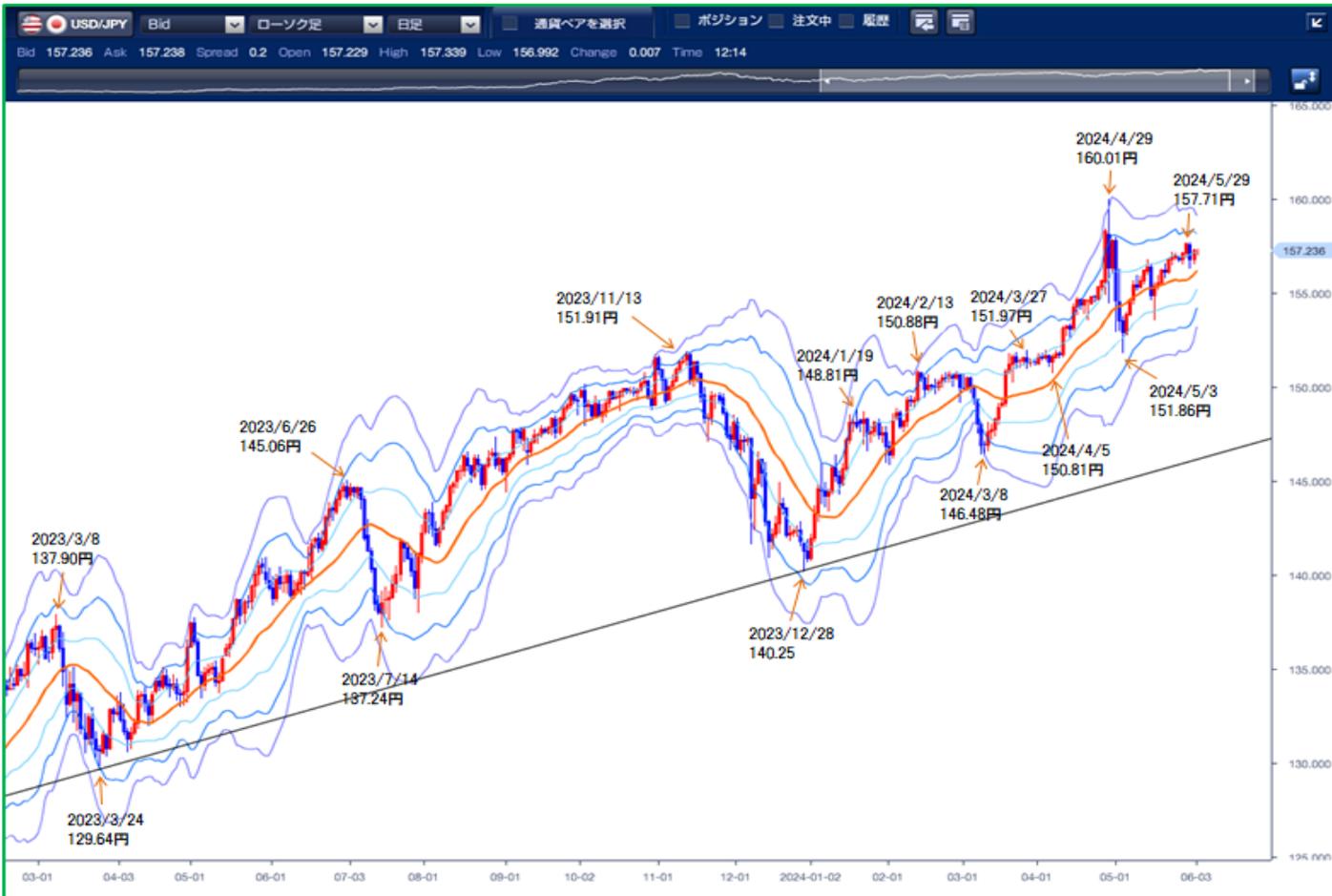
2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由に127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景に、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。2023年末にかけて日銀による金融政策変更観測やFRBの早期利下げの思惑により140.25円まで下落、3月日銀会合で17年ぶりの利上げが決定されたものの、緩和的な金融政策は維持されると見方から再びドル買いが活発化し、4月には1990年以来の高値となる160.01円まで上昇しました。160円を一時突破したことで、再び政府・日銀による円買い介入が実施され、152円割れまで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売り圧力は根強く、157円台まで反発しています。

【2024/5/27~5/31】

5月第5週のドル円は、156.89円から始まり、高値は157.71円(5/29)、安値は156.37円(5/30)となっています。週前半は、157円を手前に上値を抑えられる展開が続きましたが、5/28発表の米5月消費者信頼感指数が市場予想を上回る結果となったことでドル買いが優勢となり、157円台前半まで上昇しました。また、5/29発表の米5月リッチモンド連銀製造業指数も予想を上回る結果となり、5月1日以来の高値157.71円まで上値を伸ばしました。ただ、5/30発表の米1-3月期コアPCE改定値や米新規失業保険申請件数が市場予想を下回る結果であったことを受けて、156.37円まで下落、その後、日銀が長期金利を抑える長短金利操作(YCC)を3月に終了した後も国債の買い入れを続ける方針であることを表明したことを受け、日米金利差が意識されたドル買い円売りが優勢となり、157.36円まで値を戻す展開となりました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が上向きとなっており、上昇を示唆しています。
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が上向きとなっており、上昇を示唆していますが、 -2σ が収斂に向かっており、
 上昇に一服感があることを示唆しています。以上のことから、6/3~6/7の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 156.37円~158.09円

注目レート		テクニカル
上値②	159.29	・週足ボリンジャーバンド $+2\sigma$ 近辺(159.29)
上値①	158.09	・4/29高値160.01から5/3の151.86のフィボナッチ76.4%戻し
下値①	156.37	・5/30安値 ・5/3安値151.86から5/29高値157.71のフィボナッチ23.6%押し近辺(156.33)
下値②	155.50	・5月第4週安値 (5/20安値)

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。